甲南大学法科大学院入学試験問題について

－２０１７年度一般入学試験（前期募集・８月２１日分）－

試験科目：刑法

1. 出題趣旨

第１問は、あっせん収賄罪と贈賄罪、及び放火罪における建造物の一体性についての問題である。いずれも基本的な項目であるので、理論的な問題というよりも、事例を条文にあてはめることができるか、またそのための要件についての理解が整理できているかを問うものである。

第２問は、総論における基本的な問題である。Ａ罪を犯す意思でＡ罪を実現したが、初め意図したのと異なる客体に結果が生じた場合のように、同一構成要件内での錯誤を具体的事実の錯誤、Ａ罪を犯す意思でＢ罪の結果を生じた場合のように、構成要件を異にする事実の錯誤を抽象的事実の錯誤という。異体的事実の錯誤の場合には、予見した事実と実現された事実とが同一構成要件内のものであることから、通説・判例は、実現された事実について故意を認める。これに対しては、具体的事実の錯誤の場合であっても、行為者が具体的に認識したこととは異なる結果が生じていることから、故意阻却を認める考え方もある。

2. 採点実感

基本的な問題点であるので、全体としてよく出来ていた。なお、答案の字が乱雑で読みにくい答案が多かった。綺麗な字を書くことまでは必要ないが、丁寧な字を書くように心がけてほしい。そのためには、時間配分に注意し、答案構成をしっかりとするようにしてほしい。

3. 学習方法

法科大学院での（既修者向けの）授業では、事例分析と条文への当てはめにウエイトが置かれるので、入学までに理論的な学習により多くの時間を割き、体系的な理解を確実なものにしておく必要がある。